

となり、享保九年金澤に移り、詩を以て最も
顯れた。寶曆四年五月二十四日歿。富田景周
後にその遺稿を集めて、陸渾詩鈔と名づけた。
ミヤマル 宮丸 石川郡山島郷に屬する部
落。寶永誌に、この村領の中に中屋敷といふ
所があつて、岡本四位の居跡であると記する。
ミヤマルシヨウ 宮丸庄 石川郡に在つた。
平家物語俱利伽羅合戦の條に、『木曾殿やがて
そこにて諸社へ神領をよせられける。白山の
社へはよこ江宮丸二所の庄をきしんす。』と
見える。後世宮丸村がある。

ミヤマルホ 宮丸保 石川郡に在つた。白
山宮莊殿講中記録嘉祿二年九月の條には、『白
山神與依御供田訴訟、社官斗して奉頂戴る。
中略。敦賀津まで奉振上之處、中略。十月廿六
日申時本社奉入る。是即二條之訴訟之内、
宮丸保社被付之故也。』とある。後世宮丸村
がある。

ミヤムライソベジンジャ 宮村岨部神社
江沼郡宮に鎮座する。石部薬師と稱したこと
もあり。本殿なく、石を以て神寶とする。式
内等舊社記に、『宮村石部神社。式内一座。宮
村鎮座。今稱天神。以石爲神體。或云祭神
櫛日方命。』と見える。邑傳に、中古社殿遷滅
して居たので、寶曆八年三月十五日神靈の鎮
座する大石の上に之を造立せんとしたが、風
雨雷鳴の爲に果さなかつたから、乃ち神慮に
叶はぬのであるとして止め、唯竹垣を外圍と
して今に至つた。この蓋石の中に神石様の靈
石があると記してある。

ミヤモトヤガマ 宮本屋敷 江沼郡山代に
在つた吉田屋傳右衛門經營の陶窯を、天保六
年宮本屋宇右衛門が譲受けたものをいふ。宇

右衛門弘化二年六月廿七日歿し、弟理右衛門
業を繼いだが、安政六年三月七日亦歿し、爲
に衰勢に陥つて之を廢した。宮本屋敷の製品
は白磁で、赤色金彩の細描を主とし、陶工飯
田屋八郎右衛門が之に従事したから、一に飯
田屋窯ともいはれた。

ミヤモトヤリハチ 宮本屋理八 宮本屋敷
を經營した宇右衛門の子で、多くの記録には
利八と書かれる。同窯の初期時代、山代に在
つて専ら努力したのは理八であるらしい。天
保八年五月廿五日歿。

ミヤモリホクヨウ 宮森北葉 金澤の俳人。
雪杖の後を受けて百鶴園を繼席した。名は正
矩。新整町に住して唐木細工を營み、明治三
十六年六月八日六十三歳を以て歿した。

ミヤキキヘエ 宮井喜兵衛 金子十兵衛の
子。氏を改めて前田利家に仕へ、祿加増とも
二百石に至つた。子孫相繼いで藩に仕へる。

ミヤキシゲトモ 宮井民同 通稱柳之助。
文化十三年十二月父柳之助安泰の後を襲ぎ、
食俸三十五俵で定番歩士となり、文政四年五
俵を加へ、天保元年又十俵を加へ、六組御歩
に班し、四年四月歿した。文政元年七月三社
權現に奉納した算額に宮井光同門人泉孫左衛
門敬敬とある光同も、民同の後諱なるべく、
又文政中に集録せられたる三州算題問答集に
宮井持泰又は規矩齋とあるも同人である。

ミヤキシゲナホ 宮井重直 通稱武兵衛。
父喜兵衛の遺知二百石を受け、貞享四年御膳
奉行、元祿三年江戸御廣式御用より次第に昇
進し、祿百石を加へ、御持簡頭に至り、寶永
元年五十六歳を以て歿した。

ミヤキシユウベエ 宮井十兵衛 前田利家

に仕へて二百五十石を領し、寛永十六年歿。
子十兵衛の時から大聖寺藩臣となつた。

ミヤキタロエモン 宮井太郎右衛門 前田
利長に仕へ、六百石を領し、御中小將番頭に
任じ、寛永二年歿した。子孫藩に世襲する。
ミヤキトモカツ 宮井友勝 通稱長藏。號

は鳳岳。算學を半井允明に習ひ、金澤鍛冶町
に住して之を教授した。鶴林堂はその家塾の
名であり、またその祖を庄藏といふたので、
家を宮庄ともいはれた。子友直、後に岸氏を
冒し、友勝の諱を襲ぎ、五寶町に移りて主と
して習字を教授した。

ミヤキミツトモ 宮井光同 ↓ミヤキシゲ
トモ 宮井民同。
ミヤキヤスヒロ 宮井安泰 通稱柳之助。
號は南畝。父祖數世村井氏に仕へたが、安泰
は三池流算法を村松秀允に學び、傍ら天文・
地理に通ずるを以て、天明五年十月藩の定番
歩に召出され、食俸三十五俵を受け、享和二
年十月新番組歩となつた。安泰安永九年に圓
積義解、十年に弧矢弦解術、天明三年に三器
要解、六年に演段式解・算法得此・規矩元法別
集、七年に算法關疑抄弧背正術、享保三年に
算額凡例を著し、又寛政四年以降明倫堂の算
學師範を勤め、文化十二年八月廿二日歿。石
黒信由・瀧川有父は皆その門から出た。安泰
また易と言語の學を好み、之に關して津々連
襲の著がある。

ミユキツカ 御幸塚 能美郡今江領に在る。
能美名蹟志に、花山法皇が行脚の途、今江の
里に行宮を營み給うたが、その跡を御幸塚と
名づけたとあり、寶永誌にはまた、この附近
なる玉之院屋敷は、王子玉之院が三年居住し

た所で、折節御幸塚に逍遙し給うたとある。
いづれも同一系統の傳説で、御幸塚が前方後
圓の古墳であつたことは、北陸人類學會志に
載せられてゐる。

ミユキツカジヨウ 御幸塚城 ↓イマエジ
ヨウ 今江城。

ミユキパン 御幸橋 江沼郡動橋と高塚と
の間に、長さ四米許の石橋があつて、それを
御幸橋といふ。地方人は花山法皇巡錫の遺跡
であると稱してゐる。

ミヨウアンジ 妙安寺 河北郡古屋谷に在
つた。日蓮宗に屬し、永祿三年日蓮の創立で
あつたが、今は存せぬ。
ミヨウウンイン 明運院 加賀藩前田利
家の側室山本氏の法號。

ミヨウウンイン 妙雲院 加賀藩主第三代
前田利常の側室で、後藩臣本保加右衛門の室
となつた鈴木氏の法號。詳しくは妙雲院昌立
慈榮大姊。

ミヨウウンジ 妙雲寺 隆涼軒日録寛正二
年二月廿九日に、『加賀國妙雲寺英護首座、公
文御判被遊也。』同五年五月廿九日に、『加賀國
妙雲寺靈安首座云々、公文御判被遊也。』同年
十二月十九日に、『加賀國妙雲寺運承首座云
々、公文御判被遊也。』など、見える。妙雲寺
の所在は今明らかでない。

ミヨウウンジ 妙雲寺 金澤卯辰に在つて、
日蓮宗の小庵であつた。貞享二年の書上に、
元和四年實相院日應開基とあるが、今は無い。
ミヨウエイジ 妙永寺 能美郡北淺井に在
つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウエイジ 妙榮寺 鳳至郡波直に在つ
て、日蓮宗に屬する。文明十一年儀天之を創